教育実践

鳴門教育大学学校教育実践研究　第１号，35 － 41

家庭科における日本の生活文化の継承に関する授業開発
－「初等家庭科教育論」の実践を通して－

Lesson Development Regarding the Transmission of the Culture of Japanese Everyday Life with Home Economics: Through the practice of " Home Economics Education in Elementary School”

速水　多佳子，福井　典代

鳴門教育大学　高度学校教育実践専攻（教科・総合系）
HAYAMI Takako and FUKUI Michiyo
Advanced Practice of School Education (School Subjects Education)

抄録：学習指導要領改訂の基本方針の中には，伝統や文化に関する教育の充実を図ることが示されている。伝統や文化を尊重すること，そのよさについて理解を深めることが求められており，そのためには，授業を担当する教員に日本の伝統的な生活文化に対する深い理解が必要となる。しかし，現在の私達には，日本の伝統的な生活を身近に捉える機会は少ない。そこで，日本の伝統的な生活文化のよさを実感することをねらいとした授業を考案し，小学校教員を目指している大学生を対象に実践してその効果を検証した。実践した授業は，家庭科衣生活領域の和服を題材として，和服に適したデザインを考える演習を取り入れた。授業実践の結果，和服に対する興味・関心が高まり，和服についてもっと学びたい，知りたいという学習意欲が向上した。また，和服を日本の文化として大切にしたいと考える大学生の割合も増加した。
キーワード：生活文化，継承，日本の文様，授業開発

Abstract: Efforts to enhance education on traditions and culture are indicated in the basic policy of the Course of Study Guidelines in Japan. While respecting tradition and culture, We need to deepen understanding of their merits is required. An increased understanding of the culture of traditional Japanese everyday life is also necessary for the teachers in charge of classes. However, there are few opportunities for teachers to experience a traditional Japanese lifestyle in our current lives. Therefore, we devised a lesson that aimed for students to personally experience the merits of the culture of traditional Japanese everyday life, implemented the lesson for university students who were studying to become teachers, and verified the lesson’s efficacy. The lesson, on the subject of Japanese clothing within the area of clothing for daily life in home economics, incorporated exercises where students could contemplate designs suitable for Japanese clothing. Implementing this lesson resulted in increased interest and enthusiasm toward Japanese clothing and improved motivation for learning, with students wanting to study and know more about Japanese clothing. The proportion of university students who value Japanese clothing as a part of Japanese culture increased.
Keywords: Lifestyle culture, Succession, Japanese patterns, Lesson development

I. はじめに

社会は急速に大きく変化しており，予測が困難な時代になっていると言われる。私たちは，頻発している豪雨や大型の台風，地震等による自然災害の発生や誰も予測できなかったコロナ禍の影響を乗り越えて，暮らしていかなければならない。このような中で，今を生きる子供達には次代の社会を形成するという役割があり，現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成することが重要になってくる。中央教育審議会答申（2016）では，現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の一つとして，「グローバル化の中で多様性を尊重するとともに，現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し，伝統や文化を尊重しつつ，多様な他者と協働しながら目標に向

かって挑戦する力」が挙げられている。また,「学習指導要領解説総則編」(小学校，中学校：2018，高等学校：2019）では改訂の基本方針として，教育内容の主な改善事項の中に,「伝統や文化に関する教育の充実」が示されている。そして各教科等において，その特質に応じて内容や取り扱いの充実を図ることとされている。各教科等における扱いの具体例として，小学校では，国語科で昔話や神話・伝承などの読み聞かせから伝統的な言語文化に親しむこと，社会科は，県内の文化財や年中行事から地域の人々の受け継いできた願いを理解すること，音楽科では，わらべうたや遊びうた，踊りを鑑賞する教材等を扱うことが掲載されている。各教科等において，我が国や郷土の伝統や文化を尊重すること，その継承・発展させる態度を育成することが求められている。子ども達にこのような力を身に付けさせるためには，指導者となる教員自身にも日本の伝統や文化に関する深い理解が必要となる。

家庭科でも，今後の社会の急激な変化に対応することができる資質・能力の育成を目指して，日本の生活文化に関する内容の充実が図られている。グローバル化に対応して，日本の生活文化の大切さに気付くことができるようにするために，衣食住の生活について学ぶ中で，日本の伝統的な生活について扱うことになっている。

「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説家庭編」によると，食生活では調理の基礎に関して，我が国の伝統的な配膳の仕方を学び，伝統的な日常食として，米飯及びみそ汁の調理の仕方や和食の基本となるだし（煮干し，昆布，かつお節）について扱う。その中で，米は我が国の主要な農産物であり，主食として日本人の食生活から切り離すことができない食品であること，みそは大豆の加工品であり，調味料として日本人には古くから親しまれている食品であり，それぞれの地方で特徴があるみそが生産されていることについても理解させる。平成 25 年に,「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたこともあり，日本の伝統的な食文化の継承に向けた取組として食育の充実が推進されている。

住生活では，季節の変化に合わせた住まい方の工夫として，夏季を涼しく過ごすために，ひさし，よしず，すだれ，打ち水，風鈴などを取り上げ，日本の生活文化や昔からの生活の知恵に気付かせる。衣生活では，季節に応じた快適な着方を考える中で，夏の涼しい着方の例として，日本の伝統的な衣服である浴衣を扱う。また，生活を豊かにするための布を用いた製作の例として，日本で昔から使われているふろしきや手ぬぐいを用いて布の特徴や使い方を考え，布で作られた物のよさに気付かせる活動が挙げられている。小学校家庭科では，生活文化を継承するための基礎を培うことを目指し，生活の仕方の知恵について具体的に扱う。

近年の少子高齢化が進む社会において，子ども達が日本の伝統や文化に対して，どのような意識をもっているかについて，清水・加賀（2019）は，中学生を対象とした調査を実施している。その結果，おせち料理を食べたり，一汁三菜の食事をしたりする経験は多いものの，郷土料理を食べたり，こま・お手玉などの遊びの経験は少ない傾向にあること，生活経験の多さが生活文化に関する継承意識に影響を及ぼすことを明らかにしている。そして，家庭で経験することが難しい生活文化については，学校生活等において経験を伴う子供たちの意識形成を目的とした授業づくりの必要性を述べている。

経験を伴った授業実践例としては，駒津（2019a，2019b）による和服の着装体験の授業がある。限られた授業時間内だけの着装体験ではなく，浴衣を一定時間着用することから和服と洋服の違いを体験的に理解させ，生活文化としての和装について考えさせる実践である。その結果，着用前にもっていた和服は苦しそうというマイナスイメージが，着用後には肯定的なイメージに変化したこと，体験後には浴衣以外の和服への興味が見られ，着装技能の向上にも意欲を見せる回答が得られたことを報告している。また，福井ほか（2017）は，中学生を対象にクラス内の代表者数名への浴衣の着装を行い，伝統文化の継承について考えさせる授業実践を実施し，藤井ほか（2012）は，同じく中学生を対象に４人グループのうち１人が着付けをすることから，和服の特徴や良さを体験的に知ることをねらいとした授業を実践し，その効果を報告している。

このように，生活文化に関することを経験することや授業で実際に和服の着装を体験することは，継承意識に影響を与え，効果が見られる。しかし，和服の着装を授業で実施するには，授業者に着付けの技能が必要となるとともに，男女の着物や帯等の様々な小物の準備も必要となり，準備の大変さから授業者の負担が重い。

家庭科における生活文化に関する題材として，吉住・弓削田（2023）は，日本に 15 世紀後半から継承されてきた「茶道」を扱うことを提案している。「茶道」は，抹茶や和菓子，懐石料理，着物，茶室について学ぶことができるとともに，茶道の意義，心得，礼儀・作法，歴史等についても扱うことが可能であると考えられ，教材としての「茶道」の活用の可能性を述べている。しかし，茶道を題材として授業で取り上げるには，茶道道具等の準備に費用を必要とし，道具の扱いも慎重を期することとなって，かなりの工夫が必要であり，先の和服の着装授業と同様の扱いにくさがあると考えられる。授業者となる教員に負担がかからず，授業準備の面からも，時間と費用を要しない教材開発が必要である。また，日本の生活文化の継承を図るには，指導者となる教員側にも伝統や文化に関する理解が必要である。現在の私達の日常生活の中には，日本の伝統的な生活を身近に捉える機会は少ない。そこで，将来に教員となることを目指している本学の大学生を対象に，日本の伝統的

な生活文化に対する理解を深めることを目的とした授業を開発して実践し，その効果を検証することにした。

II. 研究方法

本研究は，家庭科で扱う衣食住の生活の中で，「衣生活」に関する内容の授業開発に焦点をあてる。日本の伝統的な衣生活文化の一つに和服がある。和服の着装に関する授業実践はこれまでにも見られるが，準備等の面で課題があるため，着装以外の方法から授業開発を試みる。

授業実践は，小学校教諭免許状取得のための教科及び教科の指導法に関する科目である「初等家庭科教育論」において，１コマ（90 分間）実施した。小学校教諭一種免許状を取得するための必修科目である。主に学部２年次学生が対象となる授業で，令和４年 12 月８日に実施した。受講登録生は，132 名（学部学生 113 名，大学院生学生 19 名）であったが，授業当日に出席していた学部学生を分析対象とした。大学院学生には現職教員も含まれるため，年齢層の違いから，分析対象は学部学生のみとした。対象学生は，105 名（男性 42 名，女性 63 名）である。授業の前後に，和服に対するイメージについての意識調査を実施して，その変化を比較した。また，授業後に感想を自由記述で求め，テキストデータを KH Coder（樋口，2020）による分析を行った。また，和服は男女によって着方や柄，模様も大きく異なることから，調査結果を男女別で比較することにした。

III. 授業開発

１．授業のねらい

学習指導要領解説（小学校，中学校：2018，高等学校：2019）から，小学校，中学校，高等学校の各学校段階における家庭科で扱う日本の伝統的な生活に関する学びのねらいを見ると，小学校では，日本の生活文化の大切さに気付くことができるようにすることを目指している。中学校では，日本の生活文化を継承することの大切さに気付くことができるようにすること，高等学校では，生活文化の継承・創造の重要性に気付くことができるようにするとともに，日本の食文化，衣文化，住文化の継承・創造を担う一員として自覚できるようにすることが求められている。学校段階が進むにつれて，理解が深まるようになっている。これらを踏まえ，教員を目指す学生に対する本授業のねらいは，日本の生活文化を理解すること，継承することの必要性を理解し，継承しようとする態度を育てることとした。

２．授業設計

和服は，日本の伝統的な衣生活文化の一つであるが，現在の私達の日常生活において，和服を身近な存在として捉える機会は少ない。和服は日常着から離れた存在であり，趣味や特別な場面で着用する衣服となっている。そこで，和服を身近なものとして興味・関心をもつようにするために，「日本の伝統的な文様」を題材とすることにした。

日本の文様については，2021 年夏に開催された東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムで市松模様が使われ，注目された。市松模様をはじめとする様々な日本の伝統的な文様は，大ブームとなったアニメ[注 1)]（鬼滅の刃：2019 年放送，2020 年映画公開）の登場人物の衣装に使用された影響もあって再認識され，様々な年代に受け入れられて，現在では至る所で目にするようになっている。近年注目されている日本の伝統的な文様を題材に取り入れた授業を行うことは，大学生も興味・関心をもって取り組み，そのよさに気付くことにつながると考えた。題材名は，「日本の生活文化に関する指導の充実－日本の伝統的な柄について知ろう－」と設定した。

３．授業概要

授業はパワーポイント資料を準備し，和服の種類や文様の例，演習の手順を映しながら進め，デザイン考案の演習を実施する際には定規とコンパスを準備した。授業の流れは，以下の通りである。

1) 学校教育における伝統や文化に関する指導
　・学習指導要領解説総則編の記載内容を確認する。
2) 家庭科における日本の生活文化に関する指導
　・学習指導要領解説家庭編，家庭科の教科書に記載されている衣食住生活における指導内容を確認する。
3) 和服の種類
　・身近な和服の例を提示し，和服を着用する場面と和服の名称を確認する。
4) 和服の柄に適したデザインの考案＜演習＞
　・定規とコンパスを用いて，各自で和服の柄に適したデザインを考えて描く。
5) 日本の文様の例
　・文様の図案を提示し，名称とその文様の由来を確認する。
6) まとめ
　・各自で考案したデザインをグループ内で披露し，伝統的な文様と比較して類似性を検討する。

授業は導入で，「学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編」に書かれている内容を確認し，学校教育における伝統や文化に関する指導の充実を図ることが必要であり，各教科等で扱う必要性があることを押さえた。次に家庭科では，グローバル化に対応して，日本の生活文化の大切さや継承することの大切さに気付くことができるようにするために，具体的にどのような内容を扱うかを確認した。衣

食住の生活を学ぶ中で，和食，和服，和室等について扱い，具体的には小学校家庭科の教科書から，食生活では，お茶の入れ方，みその種類，だしのとり方，一汁三菜などについて学ぶことを内容とともに説明した。衣生活では，浴衣，扇子，甚平，うちわ，半てん，日本手ぬぐい，風呂敷などを扱い，住生活では，障子，ござ，すだれ，風鈴，こたつ，湯たんぽ，京都の町家などについて扱うことを具体的に説明した。

そして，日本の伝統的な衣生活文化の一つである和服の種類を，年中行事との関係について触れながら説明し，身近な和服の例（浴衣，甚平，作務衣等）も挙げながら，和服を着用する機会の多さに気付かせた。次に，和服の柄に適したデザインを考案する演習を行った。定規とコンパスを用いて，絵が苦手な受講生でも抵抗なく容易にデザインができるように工夫し，下書きをした後に清書して提出することとした。デザインは，個人で考えた後にグループ内で発表させた。その後，日本の伝統的な文様の種類について，図案を見せながら名称とその由来を説明した。文様が実際に使われている例として，東京オリンピック，パラリンピックのエンブレム，座布団，風呂敷，手ぬぐいや扇子などの写真を見せながら，市松模様，麻の葉，うろこ，亀甲，七宝つなぎ，青海波，三崩し，矢絣について説明をした。これらの提示した文様と自分がデザインした図案やグループのメンバーの考案した図案とを比較して，類似性に気付くようにした。最後に，文様には草や花，動物，自然などを表す伝統的な柄が多くあること，それぞれに込められ意味があることを確認して授業のまとめとした。

IV．授業の成果と考察

１．和服の着用経験…

授業の最初に，和服（浴衣を含む）を着たことがあるかを尋ねたところ，着用経験がないと回答したのは１名で，その他（104 名）は全員が着用経験ありと回答した。着用場面を尋ねたところ，全体では，「晴着（七五三など）」82 名(78.1%),「浴衣」83 名(79.0%),「柔道着」40 名(38.1%),「甚平」25 名（23.8%）の順に多かった。男女別で見ると男性は,「晴着（七五三など）」と「浴衣」は 24 名（57.1%），「柔道着」20 名（47.6%），「甚平」8 名（19.0%）であり，女性は,「晴着（七五三など）」と「浴衣」は 58 名（92.1%），「柔道着」20 名（31.7%），「甚平」17 名（27.1%）であった。男女ともに回答の多かった順序は同じであったが,「晴着」,「浴衣」の着用経験は，男性が約６割であったのに対し，女性は９割以上と高い。

２．和服の着用希望

今後，和服を着てみたいと思うかについて，授業の前後で尋ねた結果を表１に示す。授業の前後で比較すると，授業前は「はい」と回答したのが全体で約８割あったのが，授業後には約９割に増加している。特に，女性は授業後に９割を超えていた。授業実践の対象学生は学部２年次生であり，授業実践の翌月には成人式を控えていた者が大半を占めていたことも影響していると考えられる。

３．和服のイメージ

和服のイメージについて，よいイメージとよくないイメージをそれぞれ５項目（よいイメージ：きれい・美しい，伝統・日本らしさ・和風，涼しい・夏らしい，柄・模様，軽い・動きやすい，よくないイメージ：動きにくい・歩きにくい，着にくい・着るのが難しい，価格が高い，手入れが大変・手入れの仕方が分からない，古い・時代遅れ）を挙げて，複数回答可で尋ねた。授業の前後で比較した結果を表２（よいイメージ），表３（よくないイメージ）に示す。

表２　和服のよいイメージ（授業前後の比較）

項目	授業前		授業後	
	人数	%	人数	%
きれい，美しい	97	92.4	101	96.2
伝統，日本らしさ，和風	99	94.3	102	97.1
涼しい，夏らしい	37	35.2	56	53.3
柄・模様がある	55	52.4	99	94.3
軽い，動きやすい	5	4.8	10	9.5

表３　和服のよくないイメージ（授業前後の比較）

項目	授業前		授業後	
	人数	%	人数	%
動きにくい，歩きにくい	85	81.0	77	73.3
着るのが難しい	88	83.8	82	78.1
価格が高い	72	68.6	63	60.0
手入れが大変，わからない	90	85.7	81	77.1
古い，時代遅れ	3	2.9	1	1.0

表１　和服を着てみたいと思いますか？（授業前後の比較）

	授業前						授業後					
	全体		男性		女性		全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
はい	82	78.1	28	66.7	54	85.7	92	87.6	33	78.6	59	93.7
いいえ	18	17.1	13	31.0	5	7.9	9	8.6	8	19.0	1	1.6
無記入	5	4.8	1	2.4	4	6.3	4	3.8	1	2.4	3	4.8
合計	105	100.0	42	100	63	100	105	100	42	100	63	100

授業の前後で比較すると，和服のよいイメージは，全ての項目で授業後の方が割合は高くなっており，よくないイメージは，全ての項目で授業後の方が割合は下がっていた。よいイメージでは,「きれい,美しい」,「伝統,日本らしさ,和風」は授業の前後ともに９割以上が選択しており,「柄・模様がある」は，授業前は約５割であったのが，授業後は９割を超えた。授業で和服の柄や日本の伝統的な文様を扱った結果，授業と関連した内容については，よいイメージをもつことができたようである。

よくないイメージとしては,「着るのが難しい」,「手入れが大変，わからない」,「動きにくい，歩きにくい」の項目の割合が高い。これらは和服の特徴と言える項目であり，今回の授業では着装や手入れについては全く扱っていない内容である。授業後にこれらの項目の割合が下がった理由としては，授業を受けたことによって，和服に対する抵抗感を下げることができたと考えられるが，今後さらに，このよくないイメージを減らすような授業開発を進めていく必要がある。

４．和服に関する学びへの意識

和服についてもっと学びたい，知りたいと思うかについて，４件法で尋ねた結果を表４に示す。授業前は,「とてもそう思う」12 名（11.4%),「そう思う」71 名（67.6%）と肯定的に回答していたのは,合計 79.0%であり,授業後は,「とてもそう思う」44 名(41.9%),「そう思う」55 名(52.4%)の合計 94.3%と大幅に増加していた。

男女別で肯定的に回答した割合を見ると，男性は授業前 61.9%から授業後 92.8%と約 30%も増加した。女性は，授業前から 90.5%と高い割合を示しており,授業後は 95.3%とさらに高まった。授業で日本の伝統的な文様の歴史や由来について扱ったことによって，和服に関する学びへの意欲が増したと考えられる。また，これまで知らなかったことを学んだことにより，興味・関心を引き出すことができたようである。授業前に,「そう思わない」と学びに対して否定的であった回答者 22 名（21.0%）は，授業後には，４名（3.8%）と大幅に減少していた。意欲的な回答が大幅に増加したことは，授業の効果であると考えられるが，否定的な回答を減らしたことも，授業内容を評価できる点であると考える。

５．和服の継承に対する意識

和服を日本の文化として大切にしたいと思うかについて，４件法で尋ねた結果を表５に示す。授業前後ともに回答者全員が,「とてもそう思う」,「そう思う」と肯定的に回答していた。内訳を見ると,「とてもそう思う」の割合は，授業前 52 名（49.5%）から授業後 70 名（66.7%）と増加しており，特に女性は授業前 32 名（50.8%）から授業後 46 名（73.0%）と大幅に増えた。

教員を目指している本授業の受講生は，伝統的な文化を大切にする必要があることを授業前から，十分に認識していたと考えられる。授業で，学習指導要領で示されている内容として，学校教育における伝統や文化に関する指導の充実が図られていることを説明したこともあり，伝統文化を継承することの重要性に関する理解がより深まって，「とてもそう思う」の割合が授業後に上昇したと思われる。

６．授業を終えての感想

授業を終えての感想を自由記述で求めた結果について，抽出後リストを作成し，名詞，サ変動詞，形容動詞，動詞，形容詞の各出現頻度が高かったものから 10 件を表６のように整理した。出現頻度の高い言葉から，授業の捉え方や学びの様子が見えてくる。

表４　和服についてもっと学びたいと思いますか？（授業前後の比較）

	授業前						授業後					
	全体		男性		女性		全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とてもそう思う	12	11.4	3	7.1	9	14.3	44	41.9	10	23.8	34	54.0
そう思う	71	67.6	23	54.8	48	76.2	55	52.4	29	69.0	26	41.3
そう思わない	22	21.0	16	38.1	6	9.5	4	3.8	2	4.8	2	3.2
とてもそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無記入	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.9	1	2.4	1	1.6
合計	105	100	42	100	63	100	105	100	42	100	63	100

表５　和服を日本の文化として大切にしたいと思いますか？（授業前後の比較）

	授業前						授業後					
	全体		男性		女性		全体		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とてもそう思う	52	49.5	20	47.6	32	50.8	70	66.7	24	57.1	46	73.0
そう思う	53	50.5	22	52.4	31	49.2	33	31.4	17	40.5	16	25.4
そう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
とてもそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無記入	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.9	1	2.4	1	1.6
合計	105	100	42	100	63	100	105	100	42	100	63	100

表６　感想の出現語一覧＜全体＞（上位 10 件）

順位	名詞	サ変名詞	形容動詞	動詞	形容詞
1	文様	デザイン	自然	思う	面白い
2	伝統	意味	大切	考える	難しい
3	模様	授業	様々	感じる	多い
4	自分	イメージ	好き	見る	楽しい
5	和服	生活	綺麗	知る	美しい
6	文化	成人	簡単	着る	良い
7	名前	意識	身近	描く	近い
8	コンパス	想像	色々	使う	興味深い
9	浴衣	注目	単純	込める	素晴らしい
10	興味	講義	必要	分かる	何気ない

「文様」,「伝統」,「和服」,「文化」,「感じる」,「様々」,「知る」,「込める」からは，日本の伝統的な文様には様々な種類があること，それぞれ由来があることを知り，伝統を感じている様子がわかる。「伝統的な文様には，それぞれ意味や思いが込められており，そういうことを含めて伝えて守る必要があると感じた。」,「麻，うろこ，亀，海など自然を表した物がたくさんで，日本人が自然と共生してきた歴史が見えてくるような気がした。」などの感想があり，身の周りに存在していた文様に注目することで，改めて日本の文化や伝統を感じたようである。

「デザイン」,「コンパス」,「面白い」,「難しい」,「楽しい」,「描く」からは，デザインを考案する演習は，楽しく，面白く受け入れられたようである。「デザインをすることで，日本古来より伝わっている文様の素晴らしさを実感することができ，伝承しようとする気持ちになった。」,「シンプルに楽しかった。文様を考えることで，実際にどんなものがあるのか知りたいと思うきっかけになったし，デザインを考えることの難しさを体感することで，今ある伝統的なものを大切にしたいとも思えた。」という感想があり，デザイン演習をすること自体の楽しさだけでなく，演習を通して，文様の素晴らしさを実感することもできたようである。また，グループ内で完成した図案を発表して，伝統的な文様と比較したことに関して,「時代は違っても，思い浮かぶアイデアは似ているのかなと思った。」,「デザインしたものと似ている七宝つなぎがとても気に入った。」,「独創性にあふれていて面白かった。」などの感想があった。他の人の個性溢れた作品を見ることが楽しく刺激にもなり，伝統的な文様と似ているデザインもあって，今を生きる自分達にも昔の人と同じように感じるものがあると驚いている様子が見られた。

「成人」は，成人式に関する内容で,「成人式で振袖を着るのがますます楽しみになった。」,「成人式や卒業式では，和服の柄に注目してみたいと思う。」などがあり，和服に興味をもつことにつながったようである。

出現語頻度を男女別でみたものを，表７（男性），表８（女性）に示す。男性は女性には見られなかった,「簡単」,「シンプル」,「意外」という言葉があり,「デザイン演習が簡単であった。」,「コンパスとものさしを用いてシンプルに線を描いたら，デザインが仕上がった。」,「意外によい作品ができた」という内容が書かれていて，デザインを考案する演習は抵抗なく参加できたようである。女性には，男性に見られなかった言葉として,「好き」,「おしゃれ」,「素敵」,「浴衣」があった。授業で説明した日本の文様の中から，自分の好きな文様の名称を具体的に，矢絣，三崩しなどと選んで書いていたり，和服を着こなせるのはおしゃれである，素敵であると書かれていたりする内容が見られた。

表７　感想の出現語一覧＜男性＞（上位 10 件）

順位	名詞	サ変名詞	形容動詞	動詞	形容詞
1	文様	デザイン	自然	思う	多い
2	伝統	意味	大切	考える	難しい
3	模様	授業	簡単	感じる	面白い
4	和服	イメージ	綺麗	知る	美しい
5	自分	生活	意外	着る	良い
6	文化	注目	身近	見る	楽しい
7	名前	成人	大変	描く	寒い
8	興味	表現	必要	使う	規則正しい
9	コンパス	演習	様々	込める	近い
10	種類	感動	シンプル	分かる	凄い

表８　感想の出現語一覧＜女性＞（上位 10 件）

順位	名詞	サ変名詞	形容動詞	動詞	形容詞
1	文様	デザイン	自然	思う	面白い
2	模様	意味	大切	見る	難しい
3	伝統	イメージ	好き	考える	多い
4	自分	生活	様々	感じる	楽しい
5	文化	授業	綺麗	知る	美しい
6	和服	意識	色々	使う	良い
7	コンパス	成人	身近	着る	興味深い
8	名前	想像	単純	描く	近い
9	浴衣	学習	おしゃれ	込める	何気ない
10	着物	発想	素敵	違う	古い

V. まとめ

日本の伝統的な生活文化のよさを実感することをねらいとした授業を考案し，小学校教員を目指している大学生を対象に実践を行い，その効果を検証した。「日本の生活文化に関する指導の充実－日本の伝統的な柄について知ろう－」を題材名とし，家庭科衣生活領域の和服を取り上げ，日本の伝統的な文様について考える授業を展開した。授業には，和服に適したデザインを考える演習を取り入れた。

授業実践の結果，和服を着てみたいという学生の割合が授業後に増加しており，和服に対する興味・関心が高まり，和服についてもっと学びたい，知りたいという学習意欲が向上した。また，和服を日本の文化として大切にしたいと考える大学生の割合も増加した。男女で比較すると，男性より女性の方がより積極的に，和服を着用したい，大切にしたいと考えていた。この理由として，本授業実践は大学

２年次生を対象としており，成人式の日程が近づいていたこと，和服は女性の方が華やかな印象をもつことが関与していると考えられる。

デザイン演習は短時間ではあったが，実に様々な作品が提出されていた。授業後の自由記述の感想の中にも，このデザイン演習に関する内容が多く書かれていたことから，効果のある演習であったと判断できる。「定規とコンパスだけでも，人数分の表し方があって，全部素敵だった。」，「デザインを考えることの難しさを体感することで，今ある伝統的なものを大切にしたいとも思えた。」，「自分が何気なく描いた模様や自分が何気なく着ている服などに，自分の伝統的な文様が含まれていると思うと，もっと周りをよく見たくなるし面白いと思った。」などの感想からも，演習によって，文様への興味，伝統のよさ，昔から現在まで受け継がれていることのよさを感じ取れたことが伝わる。また，市松模様，麻の葉，七宝つなぎ，青海波などの文様について，由来とともに説明したことから，継承することのよさや意義も理解できたようである。「知れば知るほど，日本の魅力的なものが伝わってきた。」，「日本らしくて誇りに思った。」などの感想が見られた。

「自分も将来，子供達に伝えていきたい。授業に取り入れたい。」との感想もあり，自分が継承していく立場となるということも理解できたようである。しかし，指導者となる教員は，伝統的な生活文化に関する深い理解がなければならない。日々の生活の中で，伝統的な生活文化を身近に感じることが難しい現在，様々な生活文化に関する知識を身に付けられるよう，折に触れて授業で扱っていく必要がある。今後は，和服のマイナスイメージを解消することができるよう，着装も取り入れた授業開発に取り組み，伝統的な生活文化を次世代に継承していくことのできる教員養成に尽力したい。

注記

1) 「鬼滅の刃」は，2016 年に少年漫画雑誌で連載が開始され，2019 年からアニメが放送され人気が上昇した。2020 年には映画の公開の影響もあり，ネット流行語大賞金賞や 2020 ユーキャン新語・流行語大賞トップテンに選ばれるほど，子供から大人まで大ブームとなり，社会現象と言われるまでになった。

参考文献

駒津順子（2019a）中学校家庭科教員養成課程における大学生の浴衣の着装体験－普段着として和服で生活してみようー. 長崎大学教育学部紀要. 教科教育学 59, 249-258.

駒津順子（2019b）中学校技術・家庭科家庭分野における生活文化の授業構想に向けた大学生の浴衣の着装体験．長崎大学教育学部教育実践研究紀要．18，137-146.

清水葵・加賀惠子(2019)中学生の日本の伝統文化の継承意識に関する研究－家庭科教科書の分析をもとにー．生活文化研究．56，25-34.

中央教育審議会答申(2016)幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）.

樋口耕一（2020）『社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－第２版』ナカニシヤ書店.

福井典代・石丸千代・西野亜貴・大和映理子・東條良栄・速水多佳子(2017)中学校技術・家庭科における被服領域の教材開発と授業実践－浴衣の着付けを通して伝統文化の継承を考えるー．鳴門教育大学授業実践研究．16，101-106.

藤井志保・村上かおり・一色玲子・谷原千代（2012）中学校技術・家庭家庭分野における衣生活文化の題材開発－浴衣の着装体験による効果の検証－．広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要．40，147-152.

文部科学省(2018)『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編』東洋館出版社.

文部科学省(2018)『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編』東山書房.

文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説総則編』東洋館出版社.

文部科学省(2018)『小学校学習指導要領（平成 29 年告示解説家庭編』東洋館出版社.

文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説技術・家庭編』開隆堂.

文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説家庭編』教育図書.

吉住夏菜・弓削田綾乃(2023)SDGs における茶道－家庭科教育での活用の検討－．和洋女子大学紀要．64，255-265.